

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	7月	16日	(記入者) 宮本正博	
取材参加者	石井	井本	西田	三谷	宮本
	本井	山口	渡辺		
取材対象先	奈良市：観音寺の十一面観音菩薩立像・地蔵菩薩半跏像				

所在地	奈良市都祁相河町90				
所有者(取材 対応者)名	観音寺 相河区長 ***氏		連絡先 ***		
	(個人情報守秘)				
取材申込	申込先・都祁相河区長 ***氏				
市町村 指定文化財	彫刻	2軀	十一面観音菩薩立像 1970(昭和45)年3月7日 旧都祁村指定、地蔵菩薩半跏像 1970(昭和45)年3月7日 旧都祁村指定		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	十一面観音菩薩立像は室町時代前期制作で技巧に優れている美作とされる。地蔵菩薩半跏像は面相が引き締まり均整の取れた体軀から鎌倉初期の秀作とされる。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	火災警報器は改築の時に取り付けられているが熱感知器や火災感知器は取り付けしていない。消火器は複数置かれている。集会所・観音寺は持ち回りで地区の住民が掃除や整備などにあたる。	資金面で市などの補助がないので地域で維持管理をしているが十分には出来ないとのこと。区長が隣なので目配りができ管理は行き届いているようだ。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	改築後は特に被害はないが見つけた時にはすぐに対応していく。	シロアリや獣害が見つければすぐに報告し、対策することであった。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	観音寺では正月や彼岸など年数回の法要が、村の住職により執り行われている。現在18軒の檀家があるが、徐々に人口が減っている。行政の補助が少ないため再建や運営維持は自治会にすべてかかってくるので人が少なくなる中かなり負担なようだが檀家の協力は強い。地域の信仰や伝統、区長の仕事ぶりが受け継がれ、住み続ける人が増えればと願う。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

1997(平成9)年に新しい集会所と観音寺が建て替えられた。その費用の多くは区民の出費で建造された。水源にある集落でお米の質が良く裕福な農家の家々のづくりである。寺はその18軒の檀家で支えられている。寺の仏像は県・市の指定文化財になっていないため地区住民の出資で維持している現状である。今後檀家の減少が予想される危機感もある。近傍には阿弥陀三尊石柱や十三仏石碑などの古来の文化財もあり地区の人に崇拝されている。地区の伝統を守っていくという区長や町民の強い思いを感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	7月	16日	(記入者) 宮本正博	
取材参加者	石井	井本	西田	三谷	宮本
	本井	山口	渡辺		
取材対象先	奈良市：観音寺の十一面観音菩薩立像・地蔵菩薩半跏像				

《写真撮影許可済み》

文化財指定名 十一面観音菩薩立像・地蔵菩薩半跏像

文化財（十一面観音菩薩立像）	文化財（地蔵菩薩半跏像）
	
地蔵菩薩半跏像拡大	仏壇全体の様子
	
文化財の由緒	地域の歴史や特徴等
<p>本尊の十一面観音菩薩立像は室町時代前期に制作されたとされる。檜材の寄木造りで玉眼並びに白毫をはめている。左臂は曲げて腹前で宝瓶を持ち、右手は下に伸ばし錫杖を5指で持つ。衣紋は深く流麗さを持ち技巧に優れた美作である。脇侍の地蔵菩薩半跏像は桧材の寄木造りで、蓮華座上に半跏し左手は肘を曲げ宝珠を載せ、右手に錫杖をつく、胸には鍍金の飾りをつける。制作時期は鎌倉時代初期とされている。両像とも秀作である。</p>	<p>太田古朴氏によると、都祁相河は、小山戸と並び古来都祁古道の中心となった。天平期に大安寺の道慈律師が都祁に山寺を建立した有力な推定地とされて、聖武天皇の伊勢参宮泊地となった。</p> <p>奈良町興善寺三尺阿弥陀像胎内から法然の弟子の消息文が発見され都祁相河の関わりが書かれていて</p> <p>相河出身の蓮阿上人や正行房がこの都祁村に來迎寺を建立したと分かった。現在都祁の真言宗系の寺は法要や正月には修正会を行っている。各檀家の家を巡回し法事も行っている</p>